

新時代

第 14 号

昭和 46 年 6 月 15 日

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会
(文 月 会)

オリンピア

盲人用、用紙打ち終り警報装置付

カナタイプライター

モデル：トラペラー S ￥38,900

トラペラー DX ￥43,830

- 機 械 堅牢（西ドイツ製）
- 外 観 スマート
- 活 字 大きく、美しく
- タ ッ チ 軽やか
- 取 扱 い 容 易
- 警報装置 紙がなくなることの心配する必要がありません。打ち終りの3行手前でブザーがなります。

この装置は、労働省の委託をうけて財団法人日本盲人カナタイプ協会とクスタ事務機とで共同開発研究したものです。



Olympia International



詳しくは下記へ御連絡下さい。

クスタ事務機株式会社

東京オリンピア部営業2課盲人担当篠島

東京都港区西新橋1-5-11

TEL (03)502-3511

目 次

1. 巻頭言 進学対策に思う 茂 木 幹 央 1
2. 視覚障害児の親の意識
一 付属盲学校 P T A アンケートより一 下 田 知 江 4
3. 理療の現状から見た職業観の転換 直 居 鉄 12
4. 社会復帰をめざして
一 それを妨げるものはなにか一 日 比 野 清 21
5. 中途失明者に対するコミュニケーション
訓練の中のハンドライティング 田 中 徹 二 26
6. 盲界再編成の時はきた 桂 田 淳 一 36

進 学 対 策 に 思 う

茂 木 幹 央

(国立東京視力障害センター教官)

進学対策の実務を担当して5年、早いもので、全国視力障害者大学進学対策委員会が発足してから5年になる。この機会に、過去5年の進学対策の歩みをふり返ると共に、進学対策の今後のあるべき姿について、私見をのべてみたいと思う。

目が見えないということのために、大学入試の受験を大学から断わられたときの気持は、それを体験した者でなければわからないかもしれない。好きで失明したわけではないのに、という気持と、自分の不幸な運命を知らされた思いとで、思わず涙があふれてくる。これは、瞎眼者が多くの大学の中から自分の志望校を自由に選択し、受験するのとあまりにかけ離れた状況である。進学対策の活動は、後に続く者達に、自分と同じような悲しい思いをさせたくないという気持から、OBが中心となり、盲人に大学の門戸を開放するための運動として出発した。即ち昭和41年7月、OBで組織している日本盲人福祉研究会が母体となり、これに日本盲大学生会、盲学校、日盲連青年部等の関係者を加えて、全国視力障害者大学進学対策委員会を結成し、全国的な規模で、進学対策にとりくむこととなった。

進学対策委員会は、爾来毎年、進学希望者の数と、進学希望者の志望大学を把握するため、全国の盲学校を対象に、「盲人の大学進学希望調査」を実施し、その結果をもとに、盲人にも入試の受験の機会を与えてほしい旨を、大学と折衝するほか、受験を許可した大学とは、入試問題や答案の点訳・墨訳等の受験方法について協議し、盲人の大学進学が少しでも円滑に運ぶよう努力している。またこの定例事業のほか、文部省・大学当局ならびに一般社会人の、盲人の大学進学に対する、理解と関心を深めることを目的として、関係者と盲人受験生をまじえての進学懇談会や、進学促進大会の開催、盲人受験生とその関係者の参考資料として貰うための「進学の手引き」の発刊・盲大学生の就職対策の資料を得るための「全国盲学校教員瞎盲比率調査」の実施等の活動を行ってきた。

これらの進学対策の活動は、いろいろな方面の反響を呼び、盲人の大学進学促進に役立つ結果をもたらしていった。まず42年には、在京の大学の点訳クラブ部員等により、日本盲大学生会の協力団体として、東京盲人問題学生協議会が結成された。43年には、聖心女子大学MS社会奉仕団団員の学生達により、二百万円近い盲人の高等教育援助資金が集められ、これをもとに、盲人の高等教育援助委員会が発足し、盲大学生に学習上必要なテープレコーダーや点字タイプライター等が貸与されるようになった。44年には、聖明福祉協会が毎年盲大学生数名に対して月額五千円の奨学金を貸与する制度を設けてくれるに至った。また同じく、44年には、東京港区の田川さんや日本点字図書館、京都ライトハウスの好意により、「Student Library」が発足した。この間、松井委員が文部省の大学入学者選抜方法の改善に関する会議の専門委員として迎えられ、盲人受験生の立場を、文部省関係者に直接説明する機会が与えられる等のこともあり、進学対策事業は多くの人達の善意と協力により、着実に前進していった。従って現在では、盲人を受入れる大学も5年前の数倍の数に及ぶようになり、今春からは東京大学もその門戸を盲人に開放するという朗報を得るに至った。

しかしながら、この5年間にはいろいろと考えさせられる問題もあった。経済的不安と前途を悲観しての早稲田の真喜屋君の死、いわゆる何々派というような学生活動家なみの行動をして、大学側から不信をかった一部盲大学生の出現、ある盲大学生が、友人の晴眼学生にあまりに世話をかけすぎるとして、その父兄から進学対策委員会に対して抗議があった問題、さらには年々増加する盲大学生の就職問題等である。

進学対策委員会としては、これらのことを十分に念頭におき、今後は次のようなことに取組む必要があると思う。

その一は、進学対策事業の主旨を日本盲大学生会、東京盲人問題学生協議会等関係団体によく徹底させ、進学対策委員会の基本姿勢について、誤解をまねくことのないよう留意することである。進学対策の活動は、権利主張に走る活動ではない。進学対策委員会が行なう進学対策の活動は、大学進学を願う盲人にその道を開くため、大学関係者に、盲人に対する正しい理解と認識を深めて貰うための活動であることを、周囲に十分徹底させる必要がある。このことは、進学対策事業が今後成果をあげていくためには不可欠であると思う。

その二としては、進学対策事業は大学進学を願う盲人にその道を開く活動ではあるが、大学の門戸開放、盲大学生の大学生生活の援助、就職対策等があまりに深入りしすぎて、そのことが盲大学生の自主性や創造性を弱めるような結果を招いてはならないということである。

これは盲大学生に対しては少し酷な言い方かもしれないが、実力のある有能な盲人を社会に送り出したいという気持からの発言であることを了解されたい。次元の低い過剰サービスは、有能な盲人を使いものにならない人間にになってしまうというのが私の考え方である。

その三は、盲人が大学の入学試験を受ける際に必要な点訳奉仕者の養成と、その組織化である。これは最近、大学に進学する盲人が増えている現状から考えて、当面の問題で急務と言えよう。

その四は、盲大学生の就職対策である。盲大学生の就職問題は、その困難性から考えて、盲大生自身のみに負担をかけたのではあまりに気の毒な面があるので、OBとしてはこの際関係者の力を結集し、その解決を図るための体制をととのえる必要があると思う。

最後にあたり、盲大学生の健闘と、進学対策事業に対する関係者の後援をねがって止まない次第である。

— 全国視力障害者大学進学対策委員会事務局長補佐 —

盲 人 用 具

研 究 製 造 販 売

点 字 ・ 墨 字 カ タ ロ グ あ り

浜 松 市 本 郷 町 1 2 3 3 - 6

盲人社会
福祉施設

盲 人 福 祉 研 究 会

電 話 0 5 3 4 - 6 3 - 2 7 6 4

振替口座 (名古屋) 1 9 9 8 8

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。